

## 安倍総理の所信表明演説を「高齢者参加」で読む

所信表明演説は2013年1月28日。代表質問は1月30日～2月1日

堀内正範 朝日新聞社社友 web「月刊丈風」編集人

世界一の長寿国なのに、国のリーダーである内閣総理大臣がどうしてこうも短命なのでしょう。2006年からの7年に7人。安倍晋三さんから安倍晋三さんまで。新内閣が成立して認証式を終えて、にこやかに写真撮影に臨んでいる時には一年足らずで終わるとは誰も思っていないのに、決まってそういうプロセスをたどっています。それでも国が安泰なことを、海外の人びとは不思議に思っていることでしょう。

かつてない「天災人禍」に出会いながらも沈着に対応し、その間もアジア途上諸国の近代化のために技術・人材・資金を投じて貢献している「日本」。先の大戦の戦禍から立ち上がって貧・富をともに分け合いながら営々として働き、半世紀余にわたる平和を堅持して作りあげた近代国家としての成功モデル「日本」。そして平和の証としてみんなで築きあげた町や村で長寿者が敬愛されて過ごす「日本」。

「未萌にして睹（み）る」立場から結論をいいますと、内閣総理大臣を長命にする法はひとつ、「高齢者」が潜在力を発揮して「日本高齢社会」をつくる以外に見当たりません。「青少年（生まれ育つ世代）」「中年者（生み育てる世代）」そして「高年者（生をいつくしむ世代）」が相応に参加して、「日本長寿社会＝高齢社会＝三世代多重型社会」をつくることによって、「経済全体のパイ」が確保でき、これまでとは次元の違う大胆な政策パッケージが可能となり、内閣総理大臣も任期の長命（政権の安定）を得ることになります。逆にいえば新世紀10年このかた、「高齢者参加」に対する経済社会対策の不在あるいは延滞が「経済のパイ」のミニ化、「総理の短命」の要因ということになります。わが身に引きつけていけば、高齢者として保持する潜在力の発揮を自覚する時でもあります。

国民の潜在力には、若者による「成長」活力とともに、高齢者（65歳以上・23・3%）の保持する「成熟・継承」活力があります。この10年余は経済のグローバル化（アジア途上国の日本化・日本の途上国化）対応のために若年層の「成長」活力だけが強調されてきました。その間、3000万人に達した高齢者の「成熟・継承」活力は黙止・留保され、経済成長のパイの外に置き去りにされてきたのです。

史上に新たなそして国際的に成功モデルとなる「日本長寿社会＝高齢社会＝三世代多重型社会」をつくるには、高齢者が保持している「知識・技術・経験・人脈・健康・資産」それぞれを活かして、各地域・各職域での三世代のための「モノ・居場所・しくみ」づくりが要請されます。優れた国（地）産品・サービスによる持続的な生産と消費の拡大が成長戦略の要なのです。あとは「高齢世代（現役シニア）」が新たな経済社会を創出するために社会参加するよう、国政の側からの呼びかけが待たれます。

安倍総理の所信表明演説には残念ながら「高齢者参加」についての発言はありません。以下は、「高齢者参加」が認識された視点による所信表明演説の読み込みです。（\*青色）のような意識が表明されてはじめて、「高齢者参加」への呼びかけとなり、「支える高齢者」にいざ出動の意欲が生まれるのです。（2013・2・2～2・10記）

・(優れた国産品・地産品・サービスを創出する意欲のある高齢者が参画する) 持続的な経済成長を通じて(新たな) 富を生み出すことができなければ「経済全体のパイ」は縮んでいってしまいます。

・(高齢者層のみなさんの参画をえて)これまでとは次元の違う(成長・成熟・継承の) 大胆な政策パッケージを提示します。

・大胆な金融政策、機動的な財政政策、そして(とくに高齢者層による積極的な) 民間投資を喚起する成長戦略という「3本の矢」

・(「青少年・中年者・高年者すべての世代の人びとの) 暮らしの安心・(高齢者のもつ知識・技術・経験・資産の参画による) 地域活性化」

・(とくに高齢者層による積極的な) 民間の投資と(増えつづける高齢者層の優れた国産品・地産品・サービスによる) 消費が持続的に拡大する成長戦略

・(「生まれ育つ世代、生み育てる世代、生をいとおしむ世代のすべての国民が) 健康で長生きできる社会」

・(これまでの歴史になかった) 新たな富と雇用も生み出します。

・(「ライフ・イノベーション」(<生から死までの人間存在にかかわる>技術革新)と(「三世代多重型社会」への) 制度改革

・(「人生90年時代」の) 未知の領域に果敢に挑戦をしていく精神

・今こそ、(国際的に先行する「高齢社会」の形成で) 世界一を目指していこう

・若者もお年寄り(注:ここだけ発言。弱者の視点で)も、年齢や障害の有無にかかわらず、全ての人々が生きがいを感じ、何度でもチャンスを与えられる社会。

・(「一人ひとりが生涯にわたって) 自らの力で成長(・成熟・継承)していこう」という気概を失ってしまったら、個人も、国家も、明るい将来を切り開くことはできません。

・(高齢者が) 自らの中に眠っている新しい力を見いだして、これからも成長(・成熟・継承)していくこと。

・「強い日本」を創るのは、他の誰でもありません。私たち自身(青少年・中年者・高年者層のすべての国民の積極的な参加)です。